

決済システムの複雑な セキュリティ基準を確実に遵守

Fact sheet

ベライゾンの2022年版PSRでは、PCC DSS v4.0の
遵守について、エキスパートがアドバイスを提供

過去10年以上にわたり、ベライゾンのPSR（Payment Security Report：決済システムのセキュリティに関するレポート）では、クレジットカード業界のセキュリティにおけるコンプライアンスの動向を追跡し、決済システムのセキュリティにおける状況の変化を絶えず注視してきました。

商取引における企業と消費者の行動パターンはここ20年の間に大きく変化しました。リモートワークやハイブリッドワークを導入する組織の数が増え、オンラインショッピングの利用が飛躍的に増加しています。医療機関や政府関係機関の決済システムでさえも、オンラインで運用されるようになりました。

同時に、サイバー犯罪者の攻撃能力は絶えず進化を続け、強力になるばかりです。一方、クラウドテクノロジーに大きく依存するデジタルトランスフォーメーションが、決済システムのセキュリティに大きな影響を与えています。そしてこのような状況を受け、クレジットカードのセキュリティにおけるコンプライアンスの遵守で、最高情報セキュリティ責任者（CISO）や他のセキュリティマネージャやセキュリティの専門家の果たす役割が複雑化しているのです。

決済システムの環境に生じる変化に追従できるようにし、データのセキュリティ管理を適切かつ実効性のあるものに維持する目的で、Payment Card Industry Security Standards Council（PCI SSC）では最近、PCI Data Security Standard（PCI DSS）の内容を大幅に拡充したバージョンアップを行い、PCI DSS v4.0を策定しました。

2024年3月31日をもってPCI DSS v3.2.1が無効になり、この時点でv4.0の要件のほとんどが有効になりますが、新しい要件の中には一部、2025年4月1日に有効になるものもあります。

PCI DSS v4.0のもたらす影響の大きさに圧倒され、選りすぐりの知見でその内容を簡素化して理解したいと望んでいるのであれば、ベライゾンのPSRが必読の資料になります。

数十年にわたる調査をベースにしている2022年版のPSRでは、PCI DSS v4.0についての詳細な情報を提供しています。また、今回の要件のアップデートがコンプライアンスの維持にどのように影響するのかを、ベライズンは詳しく理解しています。PSRのレポートでは、PCI DSS v4.0の複雑な内容をまとめており、新しいカスタマイズされたアプローチや、継続的なコンプライアンスの手法、最新の評価の手法を通じて、組織が以下のことを実現できるようガイダンスを提供しています。

- 組織が独自のコントロール手法の設計を選択した場合に意図しない結果が生じるのを回避する
- 体系化された手法やフレームワークを適用してコントロール環境を安全に設計、管理する

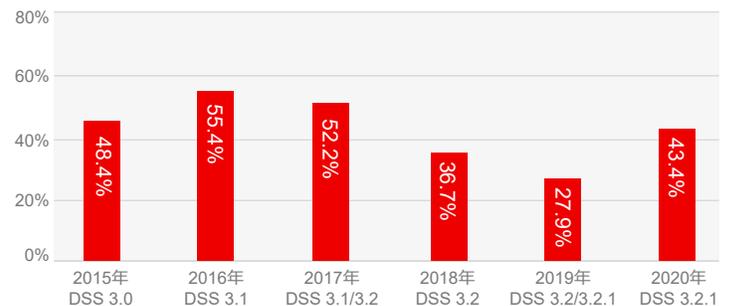
2022年版のPSRでは、PCI DSS v4.0を適切に遵守できるようにするための準備をテーマにしています。必要になるツールを把握したり、潜在的な課題を特定、解決したり、目標の判断と達成に向けて最適な方針を選択したりするための方法を理解できます。

- システム思考の適用が必要な、PCIのセキュリティに関する慢性的な課題を解決する

PCI DSS v4.0の要件を満たすうえで、セキュリティの専門家が優先すべき事柄を特定したり、要件の目的や意図、内容を明確にしたりするのに、PSRで取り上げるツールが役立ちます。

ベライゾンの調査によれば、過去3年間全体で見ると、革新的なセキュリティコンプライアンス管理モデルの適用によって、PCI DSSを遵守できている組織の割合が増えていることがわかりました。PCI DSSを遵守している組織の割合は、2019年の27.9%が2020年には43.4%に増加しています。

PCI DSSの遵守状況



PCI DSSを遵守している組織の割合は2019年から2020年の間に15ポイント上昇している。

PCI DSS 4.0を遵守するための対策の詳細については2022年版のVerizon PSR（フルレポート）をご覧ください。また、paymentsecurity@verizon.comまでお問い合わせください。